

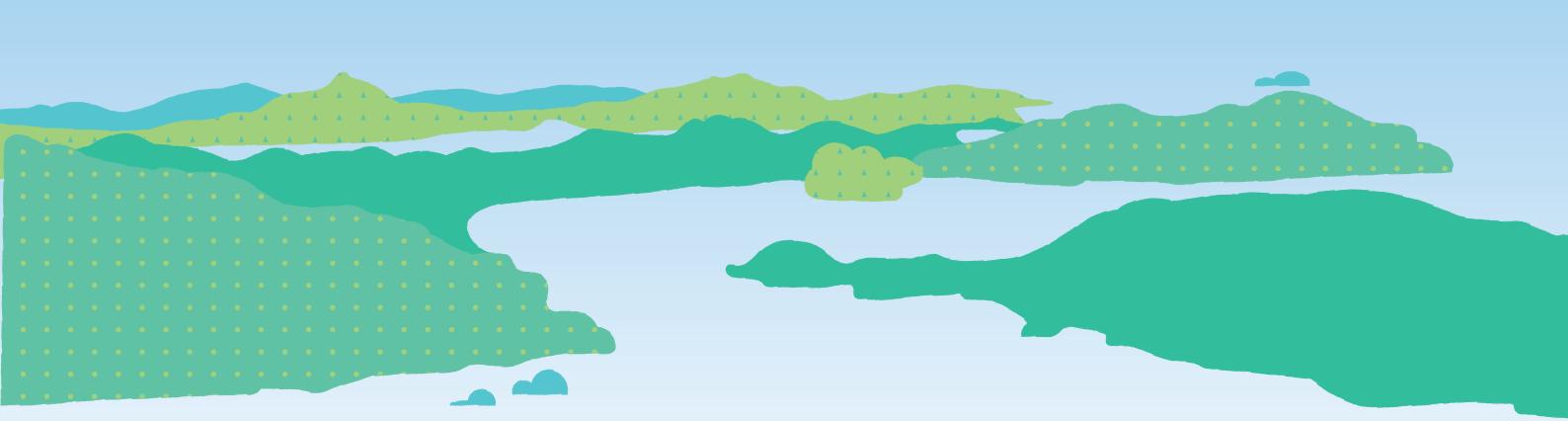


瀬戸内海ってどんなところ？

瀬戸内海
国立公園

A stylized sunburst icon is positioned above the first character '瀬' (Seto). A small bird icon is above the second character '戸'. A person riding a bicycle icon is to the right of the fourth character '園'.

Setonaikai National Park



はじめに

北海道から沖縄、小笠原と南北に長く、多様な気候や四季、地形によって豊かな自然を育み、美しい風景をいくらでも見つけることができる日本。

日本には35の国立公園(2025年3月時点)があり、ほとんど手つかずの大自然だけでなく、森林や農地、集落などさまざまな環境が含まれています。四季折々に表情を変える美しい自然、日本を代表する風景や多様な動植物、その土地で生きる人々が自然と調和して生み出した暮らしや歴史、伝統文化、食など、自然と人の暮らししが共存していることは、世界の国立公園とは異なる、日本の国立公園の最大の特長です。

そのなかでも、私たちが瀬戸内海にひかれるのは、一体なぜでしょうか？

紀伊水道から豊後水道、響灘に囲まれた東西およそ450km、南北に15～55km、約23,203km²の面積をもつ日本最大の内海には、大小700あまりの島々があります(※)。

その沿岸には、海上交通で栄えた港町や古くからある漁村、地形を利用した段々畑など人の暮らしと自然が溶け込んだ風景があり、船や展望地から眺める海は季節や時間、船が進む方向を変えるたびに色や光、島影が移り変わり、その姿に今も昔も人は魅了されてきました。

この冊子は、瀬戸内海の地形や自然環境、古くから人が行き交う海上交通の場として栄えてきた海とそこで暮らす人をとおして、個々がつながり、発展してきた歴史や文化、産業などを瀬戸内海国立公園を中心とした地域の特長や共通性などをひろいあげたものです。

古くから受け継がれるもの、時代とともに移り変わったもの、新古が共存し、時代に合わせて変化しながら、多様な地域資源と個性が詰まっている瀬戸内海。

この冊子をとおして、地域や瀬戸内に関わる人が瀬戸内海のおもしろさや多様さ、特産品や文化の背景を知り、いろんな人に「瀬戸内海ってこういうところだよ」と語れるように、そして、より瀬戸内海や地域に興味をもっていただけすると幸いです。

それでは、瀬戸内海をひも解くストーリーの始まりです。

※：瀬戸内海環境保全特別措置法による瀬戸内海の対象区域

ストーリーってなんだろう？

名所や観光地を説明するとき、

「なんでここでこれが誕生したのだろう？」

「もう少し背景のようなお話ができるといいな」

なんて思ったことはありませんか？

1つの文化にも、実は思いがけない背景があったり、

他の場所と似たものがあったり、

似ているけれど、実はここだけにしかないものだったり、

同じ瀬戸内海に面している地域でも共通していること、異なる固有性が意外とあります。

ストーリーは、1つの文化や食、生活様式から歴史をひも解き、

またそこから海や地形の共通項や違いを探す旅のようなもの。

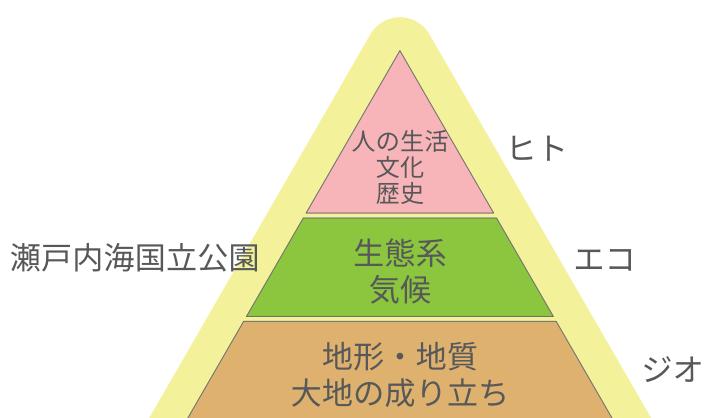
なにか興味を持つものがあったら、その説明の中にあるキーワードを探して、

大地の成り立ちや地形地質、潮流、歴史などをさかのぼってみましょう。

大地の成り立ちから地形地質や潮流、

それらを利用した歴史や産業、文化、人の暮らしの上に成り立っている、

それが瀬戸内海国立公園です。



第1章 暮らしと共にある国立公園 01

- 豊かな四季と自然・人の暮らしがおりなす国立公園

第2章 瀬戸内海の成り立ち

地形・地質が語る 07

- 大地の成り立ちとシワ、つかの間の海
～キーとなる5つの時代～
- 瀬戸内海の成り立ち
～瀬戸内海は海なの？陸なの？～
- 風景をつくる
～花崗岩由来の代表的な風景～



CONTENTS

第3章 瀬戸内海の

生態系と生きもの 13

- 瀬戸内海のさまざまな環境と生きもの

第4章 歴史・文化と暮らし 19

- 瀬戸内海に息づく暮らし・生業
- 海運から見た瀬戸内海
～人・物・文化を運んだ海の路～
- 瀬戸内海の魚介がおいしい理由

第5章 変化とともにある瀬戸内海 33

- 課題と改善-変化と継続-人とともにある暮らしの海
- 新しい価値、未来に向けて

参考・出典 39





暮らしと共にある 国立公園



富士箱根伊豆国立公園

豊かな四季と自然・人の暮らしがおりなす国立公園

- 日本の国立公園は、北海道から沖縄まで日本を代表する個性豊かな35の風景地
- 手つかずの大自然や野生の動植物だけでなく、歴史や文化、人の暮らしが自然と共に存しているのが特長
- その地で生まれた伝統文化や食、自然アクティビティなど、地域を体験できるのが最大の魅力です

● 日本の国立公園

国立公園は、日本を代表する風景地として、自然公園法に基づいて国が指定するものです。

1934(昭和9)年に雲仙、霧島、瀬戸内海の3か所で最初の国立公園が誕生し、現在は、北は北海道から、南は沖縄や小笠原諸島まで全国に35か所(2025年3月)あり、国土の約6.5%を占めています。

変化に富む地形や豊かな水と四季、ときに火山の影響を受け、また自然とともに暮らす人々が適度に自然に手を入れ、日本の自然は育まれてきました。生態系と自然環境が保たれ、7,000種の植物、1,000種を超える動物、70,000～100,000種もの昆虫類などが生育・生息しています。

日本の国立公園には、手つかずの大自然だけでなく、森林や農地、集落など私有地も多く含まれています。そこでは農林水産業などの産業が行われているため、人の暮らしと生業などと調整しながら国立公園の管理を進めています。保護と利用双方で多くの人がかかわることから、さまざまな関係団体や地域の人との連携による「協働型管理運営」が大切なのです。

● 国立公園は2つの管理方法がある

1872(明治5)年、アメリカ合衆国に世界で初めての国立公園・イエローストーン国立公園が誕生し、やがて世界各国に広まりました。日本もアメリカ合衆国の国立公園制度などを参考にしています。

国立公園は、各國の成り立ちや土地利用などに応じて、2つの管理方法などがあります。

	地域制自然公園	營造物型自然公園
採用国	日本、イギリス、イタリア、韓国など	アメリカ、カナダ、スイス、オーストラリアなど
特長	土地所有者にかかわらず、公園管理者が区域を決めて指定し、公用制限を実施 ●公園内に人の暮らしがある	公園管理者が、土地の所有権や地上権など権原をもつ ●公園専用の用地として利用
メリット	公園を指定するにあたり、土地を取得する必要がない ●広大な地域の保全が可能	土地は公園専用地 ●厳正な自然保護が可能 ●人数制限など 利用規制もしやすい
デメリット	土地所有者の私権や地域社会への配慮が必要 ●厳正な自然保護は困難	昔から多くの人家などが密集した土地で利用や、さまざまな人が土地を所有する地域では、公園の設定は困難
管理体制	国や自治体、民間など ●複層的な地域管理 ●管理体制は国によって異なる	政府の機関など1つの機関が財産として直営管理

● さまざまな環境をもつ日本の国立公園

自然公園法は、主に自然の風景地を保護の対象としていますが、人が感じる風景には視覚だけでなく五感で感じるものまで含まれています。大自然の風景が見られる場所だけでなく、人の手が入った場所も一体的な環境として国立公園に指定されています。

- ▶ 壮大な風景や手つかずの自然
- ▶ 農林業など産業に使われている場所
- ▶ 集落や観光地として開発されている場所
- ▶ 草原や湖沼、湿原、海中、里地里山
- ▶ 寺社仏閣や重要伝統的建造物群保存地区など多様な環境が含まれています。



1



2



3



4



5



6

1 中部山岳国立公園 2 慶良間諸島国立公園 3 阿蘇くじゅう国立公園 4 雲仙天草国立公園 5 西表石垣国立公園／©OCVB 6 大山隠岐国立公園

● 時代背景によって、風景の評価が変化

人に親しまれてきた名所・旧跡・伝統的な探勝地からレクリエーションに適した場所、海域景観、野生生物の生息地、広大な湿原など、長い歴史のなかで時代背景やニーズに応じて、風景の評価が変化し、多様な国立公園が指定されました。

- ▶ 名所・旧跡・伝統的な探勝地
- ▶ 山岳など原始性の高い自然の大風景
- ▶ 居住地に近接したレクリエーションに適した地
- ▶ 海蝕崖・リアス式海岸などの海の風景
- ▶ 自然性の高い生態系の景観
- ▶ サンゴなどの海中景観
- ▶ 野生生物の生息地
- ▶ 広大な湿地景観
- ▶ 生物多様性保全、環境文化型

海外から訪れた多くの人は、このような多様な環境や国立公園に人が暮らしていることに驚くかもしれません。しかし、豊かな四季や自然だけでなく、農山漁村や地域色ある産業、受け継がれてきた歴史や文化があり、自然と深くかかわりながら人が暮らしてきたことを感じられる日本の国立公園は、世界から見ても稀です。

国立公園では、風景を楽しむだけでなく、自然観察、登山や森林浴、キャンプ、シュノーケリングなどのレクリエーション、また環境教育の場やウェルネスとして、さまざまなアクティビティを体験できます。

また、その土地で生きる人々が自然と調和してつくり出した暮らしや伝統文化、食なども体験でき、それらをとおして地域を深く知り、学ぶことができる場もあります。

●瀬戸内海国立公園の特長

1934(昭和9)年3月16日に雲仙、霧島とともに日本で最初の国立公園に指定されました。備讃瀬戸を中心^{びさんせと}に紀淡・鳴門・明石・関門・豊予の5つの海峡に囲まれた地域のうち、広い海域とそこに点在する島々、それらを眺める展望地などが公園区域に指定されています。その範囲は和歌山県から大分県までの1府10県にまたがり、海域を含めると90万haを超える国内で最も広大な国立公園です。

特長

- 内海に大小数々の島が点在する内海多島海景観
- 島々の段々畠や寺社仏閣、古い港町、白砂青松の海岸など人がつくりだした人文景観
- 風雨による奇岩絶壁の渓谷や山岳、激しい潮流がみられる自然景観
- 身近にある自然と暮らしが一体となった親しみやすい景観

また、瀬戸内海国立公園は、展望地やそこから眺められる島々などが限定的に指定されており、これほど小さく公園区域が点在するのは、他の国立公園ではみられないのも特長です。

●日本の国立公園、瀬戸内海国立公園の誕生に大きくかかわった2人の父

瀬戸内海国立公園の父

小西 和（こにしかなう）



香川県さぬき市出身 ジャーナリスト、国會議員、実業家

1911(明治44)年、日本で最初に瀬戸内海の総合的な書物「瀬戸内海論」を発表。地形や気象・生物など自然環境、景色、水運や漁業などの産業、都市や暮らしなど、瀬戸内海の魅力が書かれています。また、環境・文化財の保存、外国人観光客の誘致などにもふれており、瀬戸内海を国立公園として保護する必要があることを国会で最初に提唱しました。日本の国立公園誕生に尽力し、国立公園法(現:自然公園法)や今日の文化財保護制度につながる礎を築きました。

国立公園の父

田村 剛（たむら つよし）

岡山県倉敷市出身 造園学者、林学博士



内務省衛生局の嘱託として国立公園指定のための調査を実施。自然保護と国民の保健休養や教化などの利用を目的とし、海外客を誘致して外貨獲得に寄与することもあわせた国立公園制定に尽力しました。当初、瀬戸内海国立公園は、小豆島及び屋島を国立公園候補地としていましたが、調査のなかで鷲羽山(岡山県)からの風景を発見したことをきっかけに、小高い展望地から眺める内海多島海景観こそ新しい国立公園にふさわしいとされ、小豆島(香川県)～鞆の浦(広島県)までの備讃瀬戸一帯に拡げた瀬戸内海国立公園が誕生しました。

[瀬戸内海国立公園(2025年3月)]

- ▶陸域: 67,280ha
- ▶海域: 837,541ha
- ▶1934年の指定以降、何度かの公園区域の拡張や見直しが行われました。
- ▶瀬戸内海の島の数: 727(島の周囲 0.1 km以上)、岩礁も合わせると 7,161(1986年海上保安庁調査より)



1 内海多島海景観
2 人文景観
3 自然景観

● 欧米人が賞賛した 瀬戸内海の風景 ~シークエンス景~

江戸時代後期から明治時代(1750~1912年頃)にかけて来日した多くの欧米人が、瀬戸内海の風景を賞賛し、そのようすを紀行文などに残しています。欧米人は、地理的概念や地形・地質、光や色彩、漁村などの人文景や生活景を瀬戸内海の風景としてとらえ、船が動くたびに海・島・岬などが見えたり、隠れたりと移り変わるシークエンス景を高く評価しました。

それまで、日本人は明石や須磨など歌枕や伝説・故事を残す名所旧跡の場所を評価していましたが、欧米人の影響もあり、地形・地質など自然科学的な見方で瀬戸内海をひとつの風景として眺めるようになりました。ただ、欧米人が賞賛した船からのシークエンス景、光や色彩として海を見る感覚は、当時の日本人にとっては、欧米人と航海の方法が異なり、また航行も難しかったこともあり、定着しなかったようです。



1 船から眺める風景



2 展望地から眺める風景



3 光や色彩を感じる風景

● 日本人が賞賛した 瀬戸内海の風景 ~パノラマ景~

瀬戸内海の風景観は、欧米人の評価のうち、理解・同調できた自然科学的な見方や生活景などの要素を取り入れつつ、日本人ならではの見方が根づいていきました。それは、船からの風景ではなく、展望地から眺める島々が浮かぶ瀬戸内海の風景でした。

江戸時代後期に、すでに日本人の間では広域で眺めるパノラマ景が浸透し始め、欧米人がシークエンス景を賞賛した明治時代以降においても観光航路が定着しなかったのは、日本人はシークエンス景よりもパノラマ景を好んだのかもしれません。

1906(明治39)年には、評論家・文筆家の塚越芳太郎が、書籍「瀬戸内海」において、「ここは山海の美があり、平和な海面、花崗岩の多島嶼、晴朗な大気があり、人工の美と歴史の痕跡がある」と瀬戸内海を表現しています。

[瀬戸内海の多様な地形景観]

- ① 海洋：大阪湾、播磨灘、燧灘、安芸灘、広島湾、周防灘、虫明湾、ウチノ海、鳴門海峡、船折瀬戸など
- ② 干潟：兵庫の新舞子、香川の仁尾など
- ③ 山岳：兵庫の六甲山、香川の星ヶ城山、五剣山、広島の野呂山、弥山、山口の嘉納山、大分の両子山など
- ④ 「富士」として親しまれている山：兵庫の淡路富士(先山)、岡山の児島富士(常山)、香川の讃岐富士(飯野山)、広島の因島富士(白滝山)、安芸片富士(高根山)、安芸小富士(似島)、山口の大島富士(嵩山)、愛媛の伊予小富士(興居島)
- ⑤ 火山地形：香川の屋島、五色台、城山、大槌島、小槌島、大分の高崎山、姫島
- ⑥ その他特異な地形・地質：和歌山の城ヶ崎、兵庫の成ヶ島・山口の室積半島の陸繫島、兵庫の蓬萊峠、香川の寒霞渓、岡山の王子が岳、六口島象岩、広島の仙酔島など

[時代別にみる瀬戸内海の多様な人文景観]

- ① 縄文・弥生時代：遺跡、先土器
- ② 古代：古墳と山城、国府跡、国分寺跡
- ③ 中世：水軍遺跡(海城、山城)、合戦場跡、白砂青松
- ④ 近世：城郭、農漁村集落、段々畑や傾斜畑、養殖筏、塩田跡、石切場
- ⑤ 古代～近世：神社仏閣、港町
- ⑥ 近代：洋式灯台、軍事遺跡、製錬所
- ⑦ 現代：工業地帯、長大橋、タワー、海洋レクリエーション関係施設、マリーナ、釣り桟橋、人工海浜

● 4つのポイントを押さえた展望地が決め手となり、瀬戸内海国立公園が誕生

昭和初期(1930年頃)、国立公園は、「日本を代表する自然の大風景地を対象に選定する」とされており、必ずしも地理学的な珍しさや原生的な自然植生など自然性の高さを最優先したものではありませんでした。

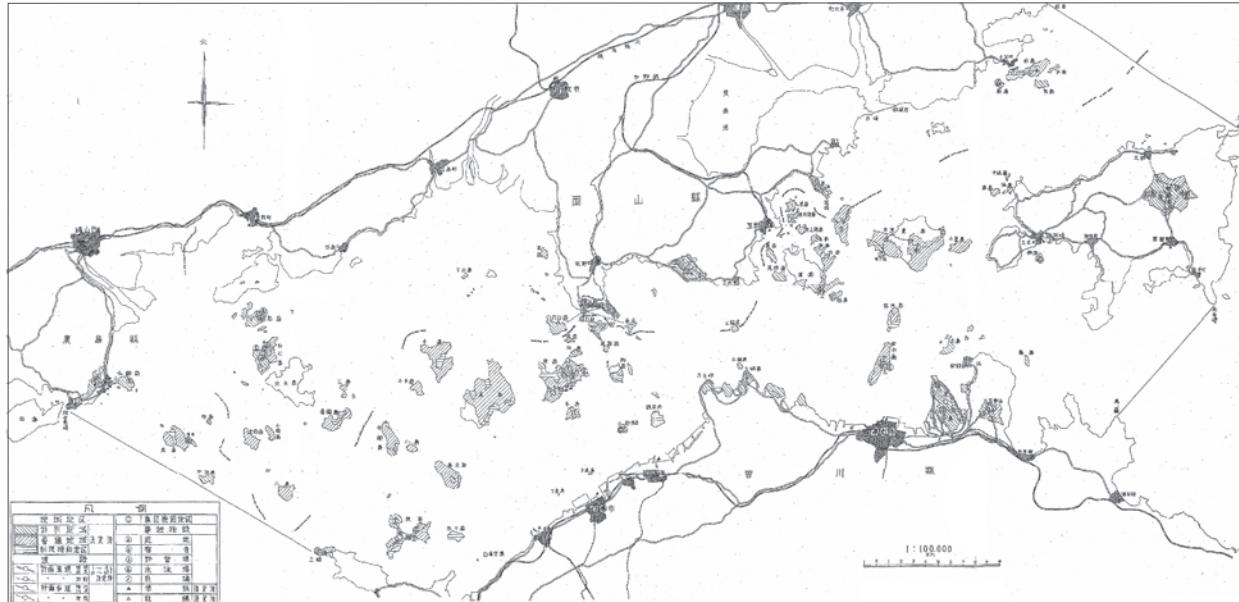
当初、小豆島および屋島が国立公園候補地でしたが、理学博士・脇水鐵五郎や林学博士・田村剛らが現地調査を進める中で、鷲羽山からの多島海景観を見つきました。ここで、「これから誕生する国立公園の核心部を得た」と自信を持ち、瀬戸内海沿岸の小高い展望地を調査し、小豆島(香川県)から鞆の浦(広島県)まで備讃瀬戸を中心とした国立公園が誕生しました。

▶ 展望地4つのポイント

- 視界が広いこと
- 遠景から近景まで見える
- 多くの島々を眺められる
- 適度な標高(陸と海が絶妙な配置で眺められる)



昭和初期の鷲羽山の海岸／写真提供：むかし下津井(しもつい)回船問屋



1934(昭和9)年 当初指定の公園計画図

● 自然のなかに見える人の暮らし、暮らしのなかに見える自然

国立公園は、自然風景地を選んだもので、特に瀬戸内海は風景が優れていることが重要です。

▶ 大事なのは…

- 島そのものではなく、島の風景
- 海のなかに島々が見える中遠景の多島海の風景

また、瀬戸内海では、自然と人がつくり出した白砂青松、歴史を刻む寺社仏閣、古くから人の暮らしが綿々と続き、農山漁村や港町、産業などで栄えた町、段々畑や花卉栽培、ときに祭事が行われる風景など、人の暮らしと自然風景が調和していることも評価されています。



1 除虫菊畑(じょちゅうぎばく) 2 祭事 3 石切©岡山県観光連盟 4 港町



● 地元の要望が詰まった国立公園の拡張

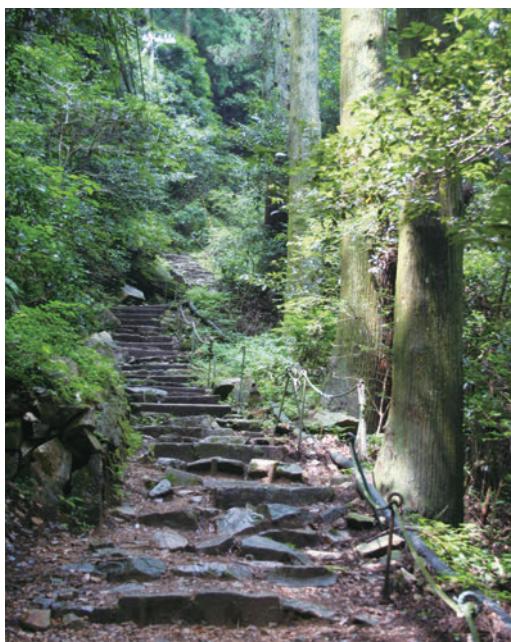
1934(昭和9)年の指定当時は、風光明媚な場所であっても要塞など軍事上の理由から、一般に紹介できませんでしたが、戦後は軍用地などがなくなったため、少しずつ世界に公開できるようになりました。

瀬戸内海国立公園では、1950(昭和25)年に1次、1956(昭和31)年に2次と指定区域の拡張が行われ、現在の範囲となりました。

1934(昭和9)年は、田村剛による多島海景観の指定でしたが、1次、2次拡張では、各府県(市町村など地元)の強い要望をふまえた申し出によって検討され、公園区域を指定しました。その結果、本土や島の展望地とそこから眺める一体的な島や岬など多島海景観を基本区域としつつも、地元の要望を受けてさまざまな興味対象要素を点的に指定したことで、多くの要素を含む多様な瀬戸内海国立公園になりました。



姫島／大分県



六甲山系摩耶山／兵庫県

➤ さまざまな興味対象

多島海景観、本土や島内の展望地以外に、以下の要素を含んだ場所が新たに指定されました。

- 多島海景観とは独立したレクリエーション地：
五色台ごしきだい、六甲山くにさき、国東半島おおやまと、野呂山のろやま
- 人文要素の寺社：宮島嚴島神社いづくしま、大山祇神社おおやまと
- 地質学的な興味対象：姫島ひめしま
- 半自然要素の白砂青松：桜井海岸、虹ヶ浜
- 地元の要望で入った島：防予諸島ぼうよ

そのほか、瀬戸景観、自然性の高い天然林や社叢林を含む森林、野生動物の生息地、鼻や岬など。

1次、2次拡張後は、各地域の利用状況などに応じて、公園区域の見直しが行われています。

● 希少な生きものがすむ国立公園

近年、国内では広島県宮島のみで見られるミヤジマトンボが生息する宮島南西部一帯の国立公園区域が2012(平成24)年に「国際的な重要な湿地」としてラムサール条約に登録されました。また、山口県屋代島沖では、国内最大規模のニホンアワサンゴの群生地が確認され、藻場とともに2013(平成25)年に瀬戸内海で初めての海域公園地区に指定されました。

● みんなで守り、伝えていく 瀬戸内海の風景

国立公園では、このように評価されてきた風景が将来にわたって眺められるよう、その指定区域に合った保護と利用を行うために開発行為などを規制しており、公園計画において規制の強弱が異なる地種区分を決めています。

土地の所有にかかわらず、こうした開発規制がかかる日本の国立公園には多くの人が暮らしており、地域の人の理解とその場所の風景や自然、動植物を守りたいという思いで成り立っています。



瀬戸内海の成り立ち 地形・地質が語る

